

平成22年3月30日

浜田市議会議長 牛尾博美様

議員名 布施賢司



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期間

平成22年3月25日(木)～平成22年3月26日(金)

2. 視察地又は訪問先

訪問先・・・山口県長門市(俵山公民館・通公民館)

3. 参加議員氏名

布施賢司  ・ 牛尾博美 

高見庄平  ・ 山田義喜 

4. 調査経費 42,504 円(一人当たり 10,626 円)

5. 調査研究活動の概要

別紙のとおり



調査活動内容

- 1 長門市^{たからやま}俵山地区（一日目）
- 視察日 平成22年3月25日（木曜日）
- 視察時間 13:30～15:30
- 場所 俵山公民館
- 出席者 *前6次産業推進室職員⇒現教育委員会所属の市の職員であり
NPO法人ゆうゆうグリーン俵山 藤永 義彦 理事長
*重村 法弘 長門市議会議員 ゆうゆうグリーン俵山 理事
- 調査目的 NPO法人ゆうゆうグリーン俵山・現地視察
6次産業への取り組みや都市農村交流、グリーンツーリズムについて

調査概要

山口県長門市は平成17年3月に1市3町が合併して人口42,000人でスタート。長門市総合計画を策定し、「活力のある健康保養のまち」を目指し4年間取り組んでこられました。昨年選挙で市長交代があったため、それまで総合計画の1つの柱であった6次産業での取り組みは評価されながらも、6次産業推進室がなくなり、それまでの取り組みを基本として、この3月議会終了後に新しい組織の立上げがあったばかりでした。浜田市と都市形態がよく似ており、水産観光都市でもあります。山陰の集落は問題点が一緒であり今回訪れた俵山地区も人口1,200人（500世帯）高齢化率40%、ご多分に漏れず少子高齢化が進んでいます。ただ違う事は俵山公民館内にあったグリーンツーリズム推進協議会を解散し、NPO法人「ゆうゆうグリーン俵山」として新しい組織を設立されたことです。指定管理をこの4月よりうけ、福祉、観光、教育、環境、農業などの方向性を自分たちで考え、進めていく組織になり地域としていくことを目指していくとのことでした。

長門市のこれまでの6次産業の取り組みについて

地域資源を活かしながら、農林水産業と商工業を融合し、新たな産業の創造を図り、そして長門らしい「おもてなしの心」あふれる観光地を市民とともに築き、賑わいあるまちを目指す。

- 1次産業・・・農林業の振興（生産体制、基盤、環境、森林）の整備
水産の振興（生産・経営基盤の整備・安定化、漁村の整備・保全）
- 2次産業・・・商工業の振興（商業・サービス業の活性化、地場産業の経営近代化・高度化
商工団体の育成強化）
産業連携の促進（地産地消の推進、特産品開発、担い手の育成）
- 3次産業・・・体験型観光の推進（グリーン・ブルーツーリズムの推進、地域ネットワークの促進）
滞在型観光の推進（温泉地の環境・施設整備、ヘルス・ツーリズムの推進
滞在施設の整備）
回復型観光の推進（観光イベントの魅力化と連携、イベント・観光情報発信、地域のホスピタリティの向上）

長門市俵山地区におけるまちづくりについて・・ゆうゆうグリーン俵山の活動

活動のコンセプト

- 1) 子どもたちが住み続けたいと思える地域にしたい
- 2) 限界集落にならないように、地域の将来を自分たちで考えよう
- 3) 体験・交流活動を通じて地域経済の活性化をはかろう

農水省の田舎体験（小学生）モデル地区・・体験型修学旅行（4校実施済み）

長門市俵山地域は、古くから湯治客が多く訪れる「俵山温泉」を中心として、その周辺を農山村集落が取り囲んでいます。この土地には、「地域で子どもたちを育てよう」という意識が強く、運動会や文化祭は地域全体で開催し、お年寄りとの交流も積極的に行なっています。現在、5つの集落でグリーンツーリズムの取り組みを進めており、それぞれの集落の家庭に少人数で分散してホームステイ（民泊）を行い、各集落の特性を行かした体験交流活動を実施しています。温泉と小規模旅館を組み込むことも可能である。

- 野外体験・・
- | | |
|-----------------|---------------|
| 1) 米、野菜、果樹の収穫体験 | 6) 吊るし柿づくり |
| 2) 野菜の植え付け体験 | 7) 俵山の歴史探訪 |
| 3) 山歩き、きのこ採り | 8) 川遊び、魚釣り |
| 4) 焼きいも・焼栗 | 9) 山登り |
| 5) 餅つき | 10) たこ作り、たこ揚げ |

- 屋内体験・・
- | | |
|----------|------------|
| 1) そば打ち | 4) 郷土料理づくり |
| 2) 子供歌舞伎 | 5) 木工、竹細工 |
| 3) 手芸、工作 | |

- 教育効果・・
- 1) さまざまな体験による子どもの自信と自立心の向上
 - 2) 自然とのふれあいや民泊による子どもの日常生活・食生活の改善
 - 3) 地域の人とのふれあいやグループでの協力による協調性、感謝の気持ちの向上
 - 4) 少人数での活動体制によるきめ細やかな体験教育

感想

6次産業を進めていくうえで、自分たちのことは自分たちで考え取り組んでいく発想から、市の職員がNPO法人の理事長となり、温泉を核とした地域づくり、人づくりを自ら進めておられた事は驚きであり、行政の関わりかたとして浜田市も私たちも考えさせられる取り組みの事例である。

2 長門市(青海島)通地区(二日目)

視察日 平成22年3月26日(金曜日)

視察時間 8:30~10:30

場所 通公民館

出席者 *通地区発展協議会 通鯨ツーリズム推進協議会 新谷 勇会長

* 県漁協山口ながと総括通支店 橘会 河野 敏春会長

* 長門市議会議員 経済建設常任委員会 武田 新二委員長

* 長門市議会議員 金崎 修三

* 長門市事務局長 山田様

調査目的 通鯨・ツーリズム推進協議会の概要と6次産業への取り組み

調査概要

通地区は、かつて長州捕鯨の基地として隆盛を極め、鯨の歴史文化を今に伝える漁村毎年開催している「通くじら祭り」は有名で、メインイベントの「古式捕鯨の再現」では実演スタッフを県内外から公募しています。

こうした交流活動を、子どもたちにも広げていくため、地域が一丸となって体験プログラムの整備などを行なってきました。自然の中で過ごす充実感や、地元住民との深い交流の中で育まれる礼儀作法は、子どもたちを大きく変えると確信しています。

人口は1,600人(634世帯)で高齢化率は40%であり、四分の一が漁業者で狭い集落の中で船を持っており、海に生きる使命感があるが漁業者とサラリーマンとの考え方が違ってきており苦慮している。体験型教育旅行の宿泊や鯨まつり、通なんでも市などのイベントを通して協力体制を構築してきている。

通鯨・ツーリズム推進協議会の取り組みや6次産業に対する考え方について

1) 農村交流体験は俵山で漁村交流体験は通でと取り組まれており、平成17年より漁業者の協力で各体験等が構築され、あわせて観光との結びつきを強化されている。半径1km程度の中に鯨資料館を筆頭に鯨に関するものがたくさんあるので、それを紹介できるマップづくりもすすめている。まちの下水マンホールは鯨の模様になっており、学生による色塗りがおこなわれている。情報発信が大切でありホームページを立ち上げた。

屋外体験・・・1) 地引き網体験
2) くじら文化通り史跡探訪
3) 漁船での体験航海
4) 波止場釣り体験
5) 海岸清掃体験

屋内体験・・・1) チリメンモンスターさがし体験
2) 魚料理体験
3) 通鯨唄体験
4) ワラ細工体験

*宿泊施設として漁家ホームステイ(民泊)もある

2) 通地区の特産品作りは仙崎のイカは有名である為、特産品としてイカの塩辛に力をいれている。いろいろ研究して販売している。

6次産業との結びつきは農林水産+観光産業で生産・作り上げたものを、なんでも市や鯨まつりで売れることをやってくる。

安全・安心体験してもらおう為、全戸保険に加入してもらい監視体制をシッカリさせている。現在、鯨ウオッチングはないが、イルカは時たま湾に入ってきているので、将来的にはウオッチングができるようにしていきたい。

感想

地域が元気である為には、誰かが始めなければならない。この通地区では漁業者の方がその一歩を踏み出した事で、大きなイベントや祭りにつながってきた経緯が感じられた。計画⇒実効⇒反省⇒継続を実践しておられ、浜田市も海を活かした、ブルーツーリズムにぜひとも力を入れる必要があると思った。



山口県長門市俵山地区



山口県長門市通地区